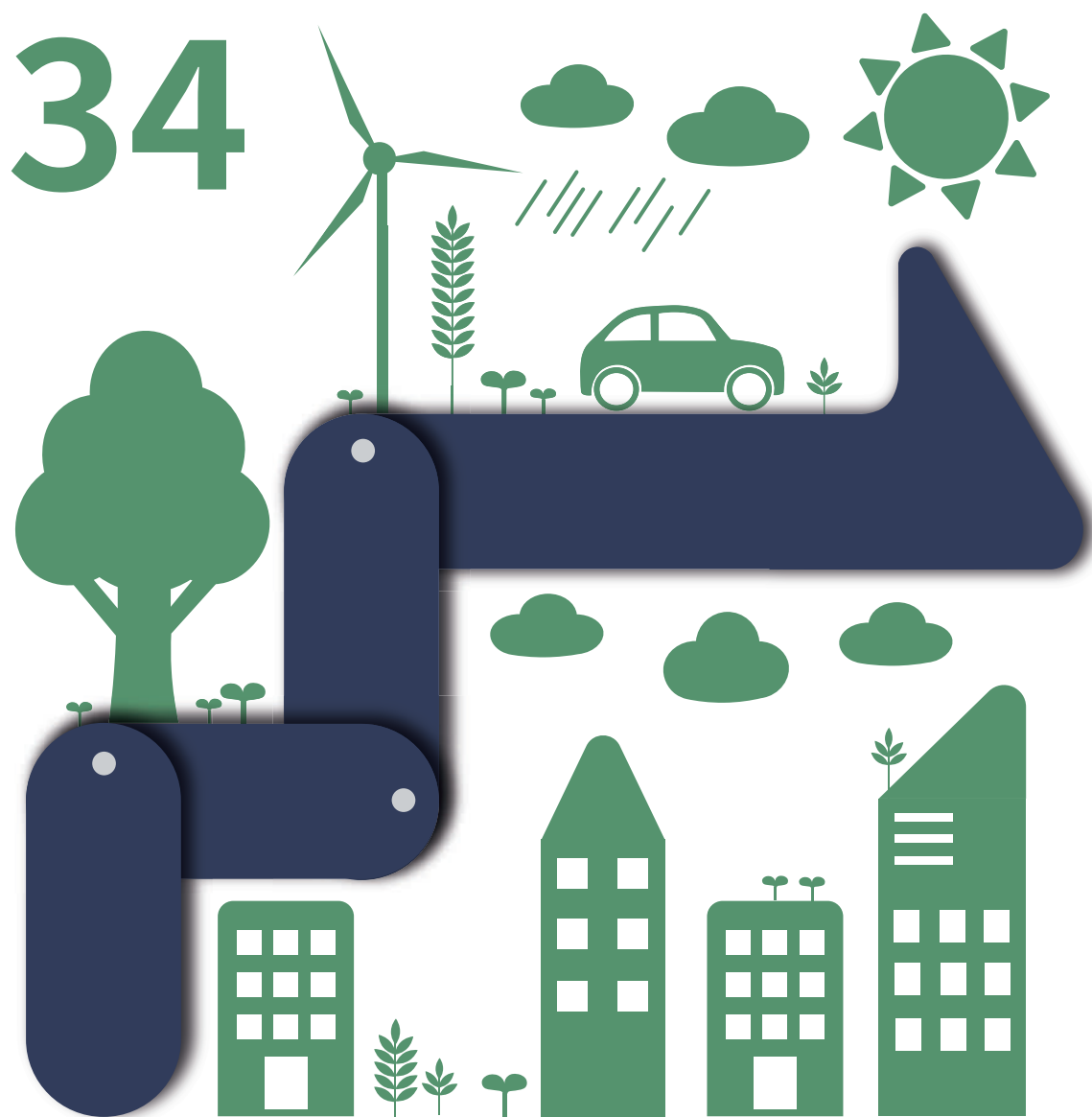


Environmental Report 34

環境経営レポート

対象期間 2023年10月～2024年9月



 **MEIKYO**

明京電機株式会社

目次

1	組織の概要	2/22
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業所名及び代表者 ■ 所在地 ■ 事業の概要 ■ 環境管理責任者及び担当者 ■ 事業規模 ■ 製品紹介 	
2	対象範囲	4/22
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 認証・登録番号 ■ 認証・登録範囲 ■ 対象期間 ■ 発行日 	
3	環境経営方針	4/22
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 基本理念 ■ 環境経営方針 	
4	実施体制と役割	5/22
5	環境経営目標	6/22
6	環境経営計画	7/22
7	-1 環境経営目標及び計画の実績・取組結果とその評価	8/22
	※実績には二酸化炭素排出量を含みます。	
	-2 取組内容及び活動ハイライト	11/22
	-3 緊急事態への対応対策・訓練	16/22
	-4 環境関連情報の公開による社内外コミュニケーション	19/22
8	来期(35期)の環境経営目標及び計画	20/22
9	環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	21/22
10	代表者による全体の評価と見直し・指示	22/22

1 組織の概要

事業所名及び代表者

明京電機株式会社
代表取締役 社長 寺地 辰己

所在地

〒114-0012
東京都北区田端新町 1-1-14
東京フェライトビル
電話 03-3810-5580
FAX 03-3810-5546
URL <https://www.meikyo.co.jp/>



事業の概要

- ・ ネットワーク機器の開発・製造・販売
- ・ 測定制御機器の開発・製造・販売
- ・ 特殊ハード製品の開発・製造・販売
- ・ ソフトウェアの受託開発
- ・ PDUの輸入・販売

環境管理責任者及び担当者

管理責任者 寺地 辰己
連絡先 電話 03-3810-5580
FAX 03-3810-5546
E-mail terachi@meikyo.co.jp

環境事務局 田中 康之
推進委員 中島 さつき

事業規模

創立 1990年
設立 1990年
資本金 3000万円
年商 1057百万円
(34期:2023年10月1日~2024年9月30日)
従業員 53名(契約及びパート社員含む)

延床面積

	33期	34期
総床面積	1078.36 m ²	1200.97 m ²
本館3階	404.65 m ²	404.65 m ² (生産製造部門)
本館4階	404.65 m ²	404.65 m ² (品質保証・開発部門)
別館2階	148.45 m ²	148.45 m ² (経営管理部門)
別館3階	— m ²	121.61 m ² (営業CS部門)
別館5階	121.61 m ²	121.61 m ² (経営管理部門)

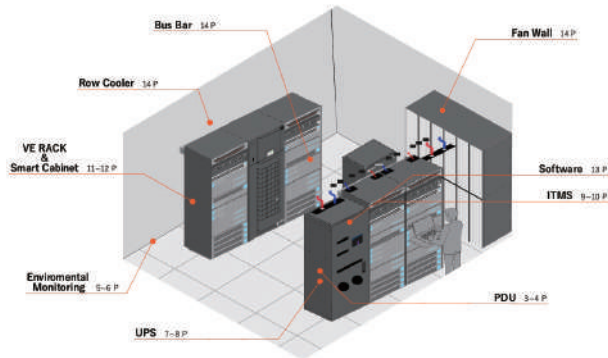
※部門増員による増床となります。

製品紹介

取扱製品

1. データセンター向けソリューション

Vertiv 製品取扱品目を拡大いたしました。(KVM・UPS・SMART CABINET)



※ 来期はVertiv PDUの自社生産開始する予定です。

2. リブーター (ネットワーク対応の電源制御装置)

新シリーズを販売開始いたしました。

 REMOTE & AUTO POWER CONTROL RPC-M4HS		▶▶▶	REBOOTER RPC-5NCSI	
 REMOTE & AUTO POWER CONTROL RPC-M2CS		▶▶▶	REBOOTER RPC-2NC	
 REMOTE POWER CONTROLLER RPC-M5CS		▶▶▶	REBOOTER RPC-5NC	
 PoE & POWER CONTROL PoE8M2		▶▶▶	REBOOTER RPC-2NCPoE	

3. クラウドサービス

『電源管理クラウド 365』をサービス開始いたしました。

2 対象範囲

認証・登録番号	0007178
認証・登録範囲	遠隔電源制御機器の開発・製造および販売、PDUの輸入・販売
対象期間	2023年10月1日より2024年9月30日まで
発行日	2025年1月1日

3 環境経営方針

基本理念

明京電機株式会社は、社会環境の変化および、生活スタイルの著しい変化に対応した世の中の情報インフラに寄与すべく、それらに貢献できる製品作りを企業理念といたします。

そのために環境経営システムをベースとした環境への負荷削減目標を策定し、限りある資源の有効活用を推進して参ります。

環境経営への取り組みに当たっては、中期目標の設定、関係関連法規の遵守、全従業員参画による環境活動等を実施し、環境経営を継続及び改善し持続可能な社会への貢献を目指します。

環境経営方針

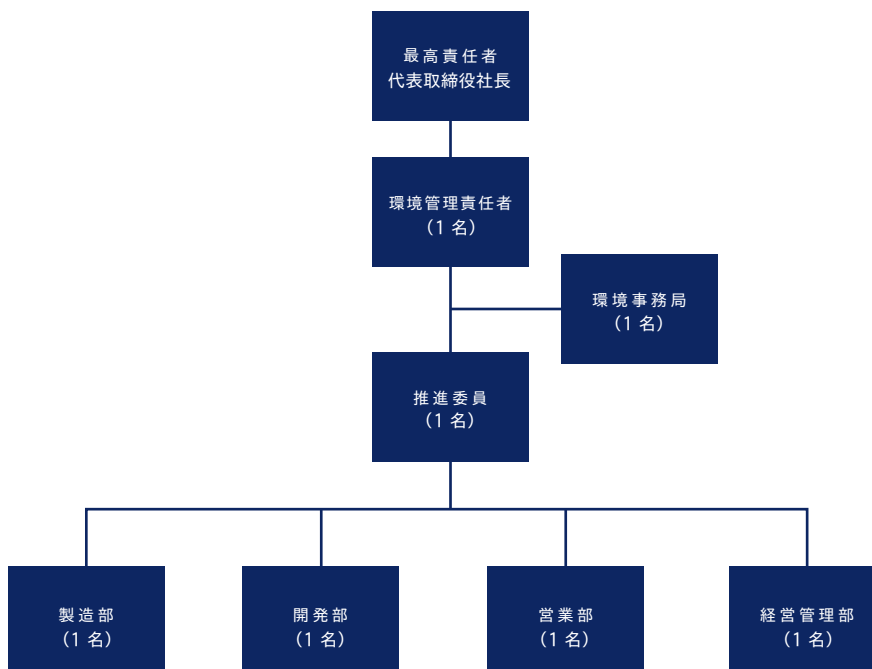
1. 「環境汚染の予防と環境保全活動」を実行し、法令遵守に努めます。
2. 電力、水等の資源を有効に使うことに努めます。
3. 廃棄物の削減とリサイクル化に努めます。
4. 化学物質についてはその維持管理に努めます。
5. 製品サービスについては節電及び二酸化炭素排出量削減に努め、環境に供するものの提供に努めます。
6. グリーン購入については環境に配慮した資材購入に努めます。
7. 環境方針について全従業員に周知し、環境意識の高揚に努めます。
8. 働き方改革に配慮した職場環境を整え、維持します。

2025年1月1日
明京電機株式会社
代表取締役 社長

寺地 辰己

4 実施体制と役割

実施体制と役割



【役割】

<p>最高責任者 代表取締役社長</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 環境経営方針の策定及び制定 2) 経営資源の準備 3) システムの見直し・改定・評価 4) 環境経営レポートの承認
<p>環境管理責任者 (1名)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) システムの確立・実施・維持管理 2) 環境経営目標及び計画の策定 3) 環境経営レポートの作成 4) 環境管理委員会の開催とその運営 5) 教育・訓練の計画と実施 6) 環境関連法規の遵守確認 7) 外部からの苦情などの対応
<p>環境事務局 (1名)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 管理責任者の補佐業務 2) 環境文章及び記録の作成・管理 3) その他のEA21に関する業務全般
<p>推進委員 (1名)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 廃棄物分別管理の記録 2) 作業工程の各種改善
<p>各部 (各1名)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 環境方針の周知 2) 計画の実施及び達成状況の報告 3) 自部門の問題点の発見・是正・予防処置

5 環境経営目標

* 中期の環境経営目標は事業計画に関連づけられています。
34・35期はデータ収集フェーズ。中期目標は実績分析を経て見直す予定です。

	短期	中期		
	34期	35期	36期	37期
二酸化炭素	32,345 kg-CO2 ※2017年東京電力調整後排出係数「0.462kg-CO2/kWh」を使用。	38,361 kg-CO2 ※2017年東京電力調整後排出係数「0.462kg-CO2/kWh」を使用。	39,412 kg-CO2 ※2017年東京電力調整後排出係数「0.462kg-CO2/kWh」を使用。	44,652 kg-CO2 ※2017年東京電力調整後排出係数「0.462kg-CO2/kWh」を使用。
電力	70,010 kWh	83,033 kWh	85,307 kWh	96,650 kWh
灯油	0 L	0 L	0 L	0 L
ガス	0 Nm3	0 Nm3	0 Nm3	0 Nm3
ガソリン	0 L	0 L	0 L	0 L
水	218 m ³	332 m ³	341 m ³	386 m ³
資源	コピー用紙の購入 349 kg	コピー用紙の購入 384 kg	コピー用紙の購入 395 kg	コピー用紙の購入 447 kg
	梱包材使用量 5.973 t	梱包材使用量 6.568 t	梱包材使用量 6.748 t	梱包材使用量 7.645 t
	グリーン購入 推進	グリーン購入 推進	グリーン購入 推進	グリーン購入 推進
廃棄物	ごみ削減 2.934 t 【内訳】 一般事業系廃棄物 2,312kg 産業廃棄物 622 kg	ごみ削減 4.000 t 【内訳】 一般事業系廃棄物 2,000kg 産業廃棄物 2,000kg	ごみ削減 4.110 t 【内訳】 一般事業系廃棄物 2,055kg 産業廃棄物 2,055kg	ごみ削減 4.656 t 【内訳】 一般事業系廃棄物 2,328kg 産業廃棄物 2,328kg
	RoHS2 指令 遵守 ※化学物質管理、含有状況の 把握を実施	RoHS2 指令 遵守 ※化学物質管理、含有状況の 把握を実施	RoHS2 指令 遵守 ※化学物質管理、含有状況の 把握を実施	RoHS2 指令 遵守 ※化学物質管理、含有状況の 把握を実施

6 環境経営計画

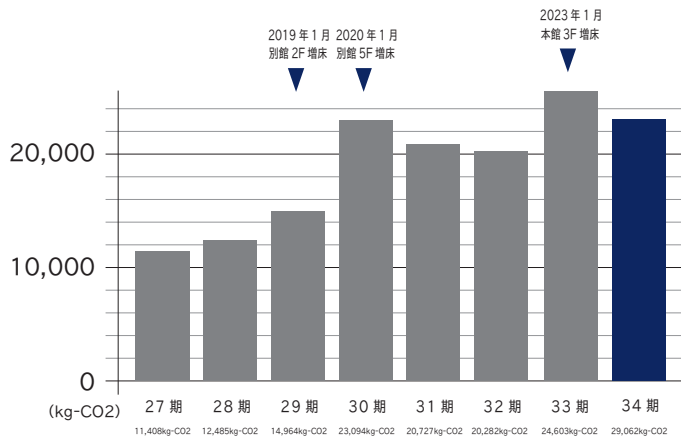
■ 二酸化炭素	内容	日程
電力 (KWh)	①定期的な消灯 各部署にて時間を定めて消灯を実施。 ②冬：エアコンの設定温度を上げすぎない。(室温 20℃目処) 夏：エアコンの設定温度を下げすぎない。(室温 26℃目処) ③PC 電源を未使用時、OFF にすることを励行。 ④コピー機の省エネ使用。 ⑤蛍光灯の LED 化の推進。	随時 随時 随時 随時 随時
灯油 (L)	未使用	-----
ガス (Nm3)	未使用	-----
ガソリン (L)	社用車を継続廃止。外出は極力公共機関を使用。	-----
二酸化炭素(kg-CO2)	※2017年東京電力調整後排出係数「0.462kg-CO2/kWH」を使用。	
■ 水		
上水 (m ³)	①無駄のない水使用励行。	随時
下水 (m ³)	①トイレの洗浄レバーの大・小の使用徹底。	随時
■ 資源		
購入品の削減		
コピー用紙 (kg)	①資料の電子媒体化による共有。 ②FSC または PEFC 認証紙の使用。 ③FSC または PEFC 認証紙を 100%使用。	随時 随時 随時
梱包材 (kg)	①リユースを考慮した梱包材使用推進。 ②廃棄実績の記録管理を習慣化する。	随時 随時
グリーン購入の推進	環境対応商品マーク (エコマーク) の付いた商品を購入する。	随時
■ 廃棄物		
ごみ削減 (kg)	リユース・リサイクル・リデュースを考慮したごみ削減を推進する。	随時
■ 環境保全		
RoHS2 指令	①現行の RoHS2 対応部品を購入することを継続する。 ②製品開発時に RoHS2 指令を遵守する。	随時 随時

*FSC 認証：管理された森林で伐採した木材を消費者に届け、得られた利益を生産者に還元する国際的な取り組み。(Forest Stewardship Council®：森林管理協議会)

*PEFC 認証：各国にある森林認証を、貿易上、相互に認め合うための仕組み。

7-1 環境経営目標及び計画の実績・取組結果とその評価

二酸化炭素



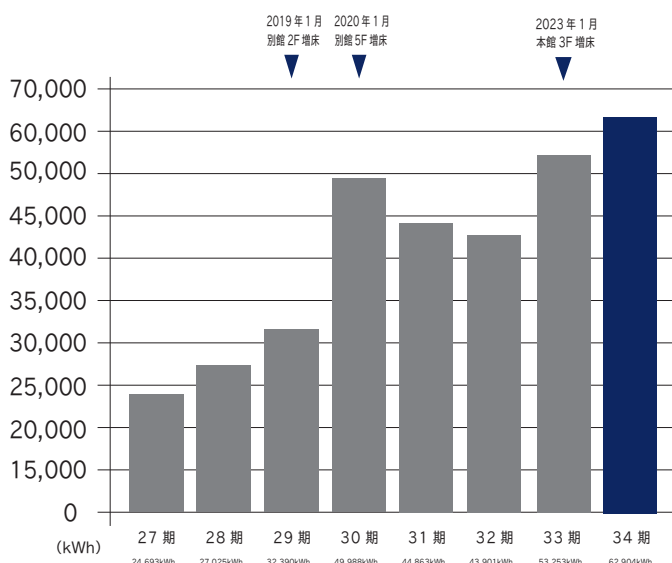
目標	32,345kg-CO2
実績	29,062kg-CO2
結果	○

【結果】 -3,283kg-CO2 (-11.3%) 減
 【評価】 新たな増床と社員増加に伴い目標計画の修正を行いました。新たな生産体制立ち上げの準備期間でフル稼働前につき目標範囲内で抑えています。来期以降は計画見直しする予定です。

関連SDGs
ゴール



電気使用量



目標	70,010kWh
実績	62,904kWh
結果	○

【結果】 -7,106kWh (-11.3%) 減
 【評価】 新たな増床と社員増加に伴い目標計画の修正を行いました。新たな生産体制立ち上げの準備期間でフル稼働前につき目標範囲内で抑えています。来期以降は計画見直しする予定です。



灯油使用量

○ 9期連続達成(未使用継続)

目標	0
----	---

ガス使用量

○ 9期連続達成(未使用継続)

実績	0
----	---

ガソリン使用量

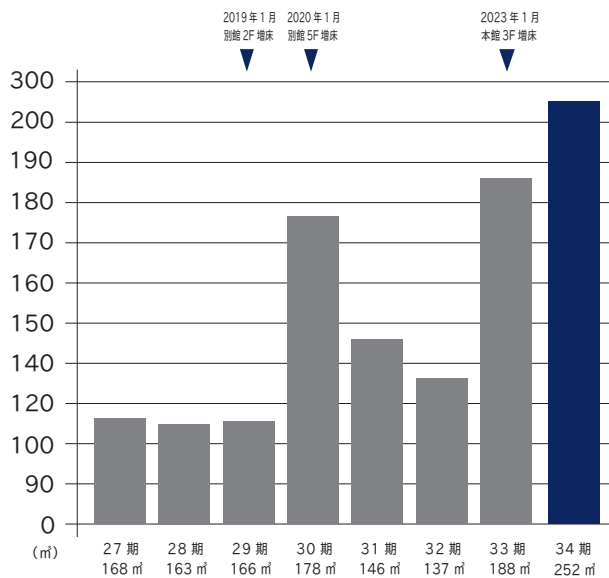
○ 9期連続達成(未使用継続)

結果	○
----	---

【結果】 ○
 【評価】 例年どおり未使用。この方針を崩さずに来期以降も継続してまいります。



水使用量



目標 218 m³

実績 252 m³

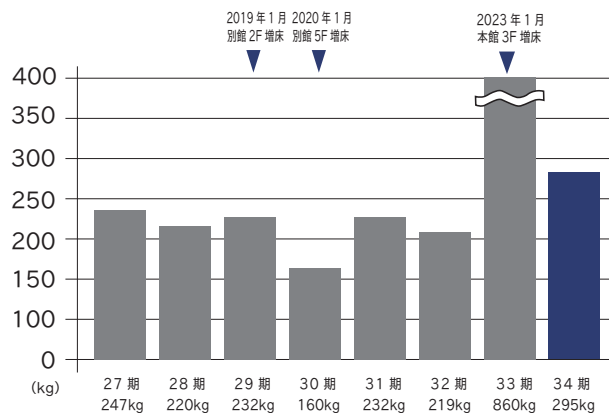
結果 **×**

【結果】 34 m³ (13.3%) 増
 【評価】 社員数増加に伴い、増加した形です。
 今後も使用量を注視していきます。

関連 SDGs
ゴール



コピー用紙の購入



目標 349kg

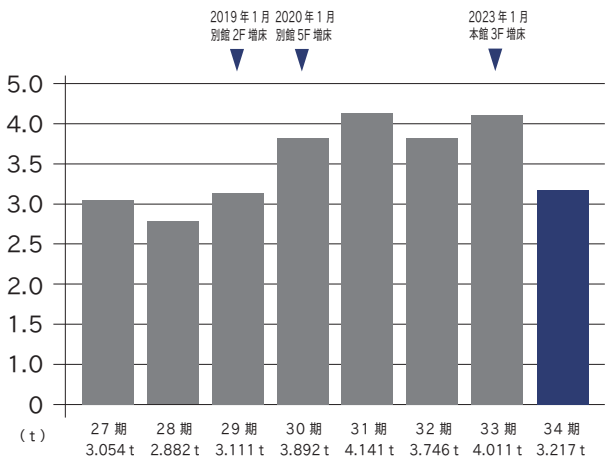
実績 295kg

結果 **○**

【結果】 -54kg (-18.4%) 減
 【評価】 人員増加によりコピー用紙の使用頻度が高くなりました。できるだけ電子媒体による資料作成～共有化するように指示します。



梱包材使用量



目標 5.973 t

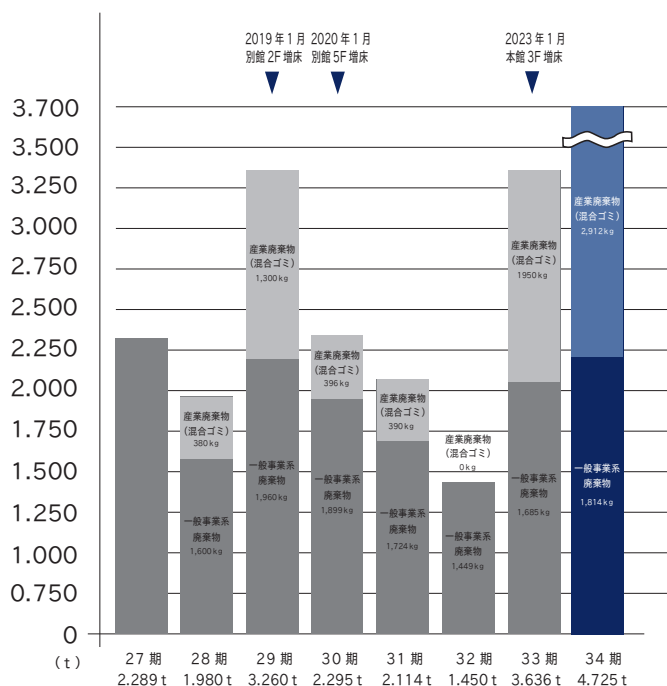
実績 3.217 t

結果 **○**

【結果】 -2.756 t (-85.7%) 減
 【評価】 当初製品売上予測よりも下回ったため、結果的に生産数を抑えたことによりです。



廃棄物



目標	2.934 t 一般事業系廃棄物 : 2,312 kg 産業廃棄物 : 622 kg
実績	4.725 t 一般事業系廃棄物 : 1,814 kg 産業廃棄物 : 2,912 kg
結果	×

関連SDGs
ゴール



【結果】 2 t (37.9%) 増
 一般事業系廃棄物 : -498 t (-27.5%) 減
 産業廃棄物 : 2.934 t (78.6%) 増

【評価】 海外輸入した製品不良、併せて関連する特定部門からの産業廃棄物が大きく積み上がった結果となります (全体の8割) 来期は一部海外製品の生産体制も変更するため、引き続き注視してまいります。

7-2 取組内容及び活動ハイライト

SDGs の目標 17 個に対する活動内容







1. 電気使用量削減	関連SDGs	35 期計画
<p>空調</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期メンテナンスで健康管理 <p>時間使用するエアコン消費電力は、可能な限り削減へ向けています。空気の循環を改善し、冷暖房の効率を高め、健康管理にも結びつけていきます。 (実施日 2024,6/7)</p>   	   	<p>継続</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 空気循環 <p>今期の夏の猛暑の課題。設定温度の目安設定もありますが、体調管理を最優先。サーキュレーター/扇風機を活用し、隅々までいきわたるようにフル稼働し継続中。</p>  	 	<p>継続</p>
<p>熱遮断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遮熱シート設置 <p>人が集まるところを優先し、設置エリアを拡げました。</p> 	 	<p>継続</p>
<p>照明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不要照明の消灯 <p>主に昼休憩時の不要時は、消灯を実施しています。</p> 	 	<p>継続</p>

1. 電気使用量削減	関連SDGs	35 期計画
<p>・ 部分消灯 【新規取り組み】</p> <p>「照明レイアウト」により必要照明が分かる形へ。人がいないエリアは、こまめな消灯へ向けてます。</p> 	 	継続
<p>・ 人感センサーで照明減光</p> <p>主に出入口へ設置。暗い状態でスイッチを探すこともなくなり、自動点灯により出入りもスムーズになり安心です。</p>  	 	継続
<p>・ 照明設備 LED 化</p> <p>蛍光灯はLEDへ順次置き換えを実施、蛍光灯の廃棄量の減少へ結び付けてます。</p> 	 	継続
<p>PC</p> <p>・ PC・ディスプレイの待機電力対応</p> <p>ひとり1台以上の使用環境もあり、個々の意識的な実施を推進しています。</p> 	 	継続

2. ガソリン使用量削減	関連 SDGs	35 期計画
<p>社用車</p> <ul style="list-style-type: none"> カーシェアリングで環境負荷を低減 <p>社用車は保有していません。そのためカーシェアリング+レンタカー+公共交通機関を組み合わせ対応、無駄なコストを削減しています。</p> 	 	<p>継続</p>
3. 排水量削減	関連 SDGs	35 期計画
<p>水道</p> <ul style="list-style-type: none"> 水道量の増加対応 <p>社員数増加に伴い、水道量増加となるため、今後も使用量を注視していきます。水道の故障時には、速やかにビル管理会社へ連絡し修復依頼しています。</p> 		<p>継続</p>
4. 廃棄物排出量削減	関連 SDGs	35 期計画
<p>産廃</p> <ul style="list-style-type: none"> 混合廃棄物の削減【新規取り組み】 <p>「混合」の分離率を向上しました。これまで分別が不徹底であったため、新たに廃棄物種類ベースで仕分けしました。対応には時間を要するも、部門間での再利用や、PCリサイクルなど適正処理へ至る結果となりました。</p>    	  	<p>継続</p>

4. 廃棄物排出量削減	関連 SDGs	35 期計画
<p>・ 分別対応</p> <p>廃棄物種類として、金属、木くず、混合、蛍光灯、電池など分別しました。問題がある搬出品目は特段ありませんでした。今後は受付時点で廃棄物を精査し、特に排出量そのものの削減へ向けます。</p> 		<p>継続</p>
<p>ダンボール</p> <p>・ 廃棄物置き場</p> <p>かさばるものはつぶし、重ねて捨てる工夫も継続対応中です。</p> 		<p>継続</p>
<p>梱包材</p> <p>・ 梱包材繰り返し利用</p> <p>手間がかかる梱包材の引き取り・処分ですが、エアークャップ、通い箱を積極的に活用しています。取引業者間で何度も部材往復するため、耐久性が高いプラダン通い箱は、長期的にも有効活用しています。</p> 		<p>継続</p>
<p>一般</p> <p>・ リサイクル処理</p> <p>日々発生する機密文書にはシュレッダー処分を徹底、大量文書にはとりまとめて、溶解処理にて対応しています。これらは廃棄物処理業者によって、最終的に再資源化されてます。</p> 		<p>継続</p>

4. 廃棄物排出量削減	関連 SDGs	35 期計画
<p>・ ペーパーレス FAX 導入【新規取り組み】</p>  <p>受信FAXで紙出力もなく なり、外出先でスマホから 情報確認もできるよう になりました。運用開始から 間もないですが、今後も 経過を見てまいります。</p> <p>・ ペーパーレス電子 承認ワークフローも 継続中</p>  <p>紙ベースからクラウドシ ステムに変更し数年経過し ました。特段問題なく効率 化も進んでいるため継続し ていきます。</p>	   	<p>継続</p> <p>継続</p>
5. グリーン購入推進	関連 SDGs	35 期計画
<p>・ 環境ラベル認定品 などを優先</p>    <p>総務にて集中購買を担い、 環境ラベル認定品を優先し て選定購入。ただ全社呼び かけは不足していました。 各部門で意識的にグリーン 製品を選定できるよう、購入 ルートの共有をはじめ推進 してまいります。 FSC認証紙、リサイクル トイレットペーパー（材 質／再生紙100%）、消火 器（消火薬剤40%以上の リサイクル品を使用）</p>	 	<p>継続</p>

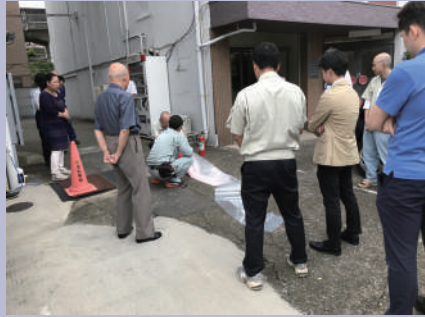
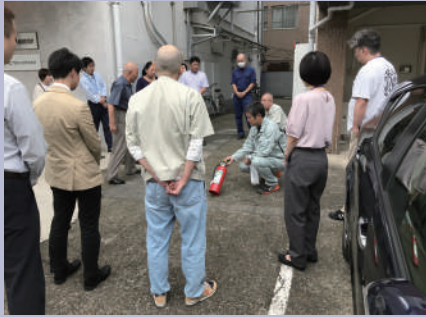
1. 事故および緊急事態の想定訓練

関連 SDGs

35 期計画

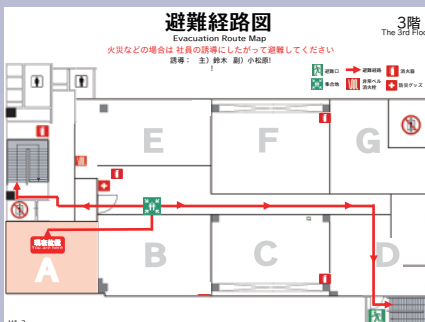
・火災予防 - 初期消火訓練実施 (9月25日実施)

テナント合同で自然発火から消火器の使用方法を学びました。主に安全衛生委員会メンバーより選出し、再確認しました。(全7名参加)



・緊急時の分担【新規取り組み】

避難誘導先者を各フロアごとに決めていきます。外部者でも明確に分かるよう、各種警告ラベルも増設しました。



継続



継続

1. 事故および緊急事態の想定訓練

関連 SDGs

35 期計画

・AED/心肺蘇生法訓練実施【新規取り組み】（6月18日実施）

初めて参加した方もいるなかで、基本を学びつつ実際に模擬シチュエーションを実施しました。定期的な訓練の必要性や、安全安心な環境の確保に向け意識を高めました。（全20名参加）



継続



産業医との職場巡視【新規取り組み】

・全社向け課題

これまで落下・転倒防止の対策不足でした。全フロアにわたり生産製造、営業、品質保証開発部門の共通課題として対策を講じ、大きく改善へ向けました。

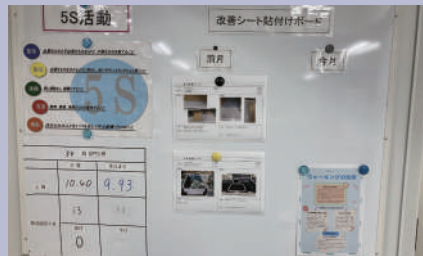
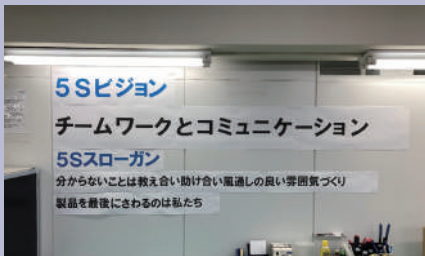


継続

1. 事故および緊急事態の想定訓練

・5S 推進活動

製造部の活動姿勢は確立しており、34期(2023/10～2024/9)の提案件数は265件、改善件数は255件でした。来期は生産部員をはじめ増員体制となりますため、全社へ向けた5S推進活動を進めてまいります。



5S改善カードより一部抜粋

関連 SDGs

35 期計画



継続

2. 人権・労務

ハラスメントを防ぐ
ルール・教育・相談
体制

・ハラスメント研修 実施

来期も従業員のメンタル
ヘルスケアを行い、よい
職場づくりの実践に努め
てまいります。



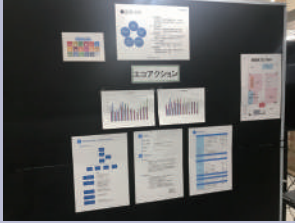
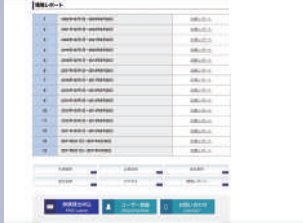




関連 SDGs

35 期計画



継続

7-4 環境関連情報の公開による社内外コミュニケーション

2. 人権・労務	関連 SDGs	35 期計画
<p>・ 社内</p> <p>エコアクション21 掲示板、意識付けとして関係資料を掲示しております。</p>   <p>※当社WEBサイト</p> <p>・ 社外</p>  <p>※エコアクション21中央事務局WEBサイト</p>	   	
1. 環境取組事例	関連 SDGs	35 期計画
<p>感謝状</p> <p>・ 社外</p> <p>・ 授与機関：一般財団法人 持続性推進機構 エコアクション21中央事務局</p> <p>・ 理事長 森本英香</p> <p>・ 永年継続事業者への感謝状</p>  <p>・ 社外</p> <p>・ 授与機関：環境省 環境大臣 原田義昭</p> <p>・ 第22回環境コミュニケーション大賞(環境経営および環境コミュニケーションへの取組促進、環境情報開示への)感謝状</p> 		

8 来期(35期)の環境経営目標及び計画

* 環境経営の目標は事業計画に関連づけられています。

	目標	計画
二酸化炭素	38,361kg-CO2 ※2017年東京電力調整後 排出係数「0.462kg-CO2/ kWh」を使用。	
電力	83,033kwh	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期的な消灯 2. エアコンの適正温度設定 3. PCの電源管理 4. コピー機の省エネ使用 5. 蛍光灯のLED化の推進 6. 開発試験、実験の計画的な実施
灯油	0 L	未使用
ガス	0 Nm3	未使用
ガソリン	0 L	未使用
水	332 m3	無駄のない水使用敢行。 トイレの洗浄レバーの大・小の使用徹底
資源	コピー用紙の購入 384 kg	FSC または PEFC 認証紙使用
	梱包材使用量 6.568 t	<ol style="list-style-type: none"> 1. リユースを考慮した梱包材使用推進 2. 使用実績の集計を習慣化する。
	グリーン購入 推進	エコマーク商品の購入促進
廃棄物	ごみ削減 4.000 t	リユース・リサイクル・リデュースを考慮 したごみ削減を推進する。
環境保全	RoHS2指令 遵守	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現行のRoHS2対応部品購入を継続する。 2. 新製品はすべてRoHS2対応とする。

9 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

- ・ 関連法規制の遵守状況確認を毎年1回実施しており、違反はございませんでした。
- ・ 法規制違反の指摘及び訴訟の請求は過去7年以上ございません。
- ・ 地域住民などからの苦情は過去7年以上ございません。

環境関連法規制等の遵守状況の確認結果

区分	法規	目的および法的要求	要求への対応	評価
廃棄物処理	「産業廃棄物処理法」	処理業者との契約、許可証有効性	適切な業者へ委託、有効期限切れはございません。	遵守
		マニフェスト交付保管	5年保管	遵守
		マニフェスト交付等状況報告	期限内に『産業廃棄物管理票状況報告』を提出いたしました。	遵守
	「資源有効利用促進法」	PCの適正処分	PCはリサイクル業者を介し、廃棄管理処理をいたしました。	遵守
公害防止	「フロン排出抑制法」	冷凍空調機機器の定期点検・簡易点検	定期・簡易点検含め適切な業者へ委託、一定頻度で実施しております。	遵守
	「東京都環境確保条例」	騒音規制	第3種区域(準工業地域、50~60デシベル)ですが、近隣地域からの苦情はございません。	遵守
化学物質	「RoHS2指令」	特定の有害物質の使用制限(制限10物質)	EU市場への販売はございませんが、特定有害物質は含まれておりません。	遵守
安全衛生	「労働安全衛生法」	労働者の安全と健康の確保と快適職場環境の形成	就業規則の遵守、安全衛生委員会を開催しております(月1回)	遵守
環境対応	「環境基本法」	製品製造・販売にて、廃棄時の適正処理	産業廃棄物処理法と併せ、エコアクション21へ積極的に取り組んでおります。	遵守

10 代表者による全体の評価と見直し・指示

2023年10月から2024年9月に於いては弊社におけるビジネス環境が大きく変化した1年でした。弊社が7年ほど前から取り扱いを始めたデータ・センター市場の製品が、その市場の急速な拡大と共に伸張し、ビジネス環境のパラダイム・シフトが進みました。その影響で、人員の増加、それに伴う増床と職場環境の変化が起き、期初に計画していた環境経営の目標を一部クリア出来ずという結果をもたらしましたが、概ね及第点を上げてもいい結果と判断しています。

働く環境整備といった面にも着目し、安全衛生委員会主導でAEDを設置し一人一人がその時に適応できるようにトレーニングも実施することができております。一方で職場におけるハラスメントの防止という面でも外部講師を招聘し全社員参加で研修会を開催して、ロールプレイを通して実体験することもできハラスメントへの意識向上に繋がってきていると感じています。

職場におけるECO ACTION 活動を通して、CO2削減のみならず安全意識の促進、職場モラルの向上といった副産物も出てきていることにこの活動の意義を社員が見出していることを嬉しく思います。

35期はビジネスのパラダイム・シフトに応じた活動を引き続き期待しているところです。環境経営方針、実施体制は変更ありません。

SDGsの5つの「P」とは？ 5つのPを知ればSDGsが目指す世界がイメージできます。

1. People 人間
 ゴール1からゴール6が該当します。
 貧しさを解決し、健康でおたがいを大切にしよう

2. Prosperity 豊かさ
 ゴール7からゴール11が該当します。
 経済的に豊かで、安心して暮らせる世界にしよう

3. Planet 地球
 ゴール12からゴール15が該当します。
 自然と共存して、地球の環境を守る

4. Peace 平和
 ゴール16が該当します。
 争いのない平和を知ることから実現しよう

5. Partnership パートナーシップ
 ゴール17が該当します。
 いろいろな形で、みんなが協力し合う大切さ

国際連合広報局

次回の環境経営レポートは2025年12月頃の予定です。

2025年1月1日
 代表取締役 社長

寺地 辰己